第32期社会教育委員の会議

第１回定例会

令和８年６月26日

【１】開催日時

令和８年６月２６日（金）１８時３０分～２０時４０分

【２】開催場所

教育会館３階　研修室「ぎんが」

【３】出席委員

井上委員（議長）、毛利委員、今宮委員、新澤委員、近藤委員、佐藤委員、吉田委員、新海委員

【４】出席職員

教育委員会事務局

知久教育長、平原生涯学習課長、宗社会教育担当係長、富永社会教育係長

小川団体支援・福祉教育担当係長、佐藤社会教育係主任

【５】傍聴人

無し

【６】次第

１　委嘱状交付式

２　知久教育長あいさつ

３　社会教育委員の会議の活動概要

４　委員・事務局紹介

５　議事

（１）議長、副議長の選出

（２）議事録署名人の指定

（３）世田谷区社会教育関係団体に対する補助金交付について

（４）第３２期社会教育委員の会議の取り組みについて

６　その他

（１）次回日程について

午後６時30分開議

○課長　それでは、ただいまから第32期社会教育委員の会議「第１回定例会」を始めさせていただきます。

本日は、お足元の悪い中、また、お忙しい中、会議に御出席いただきましてありがとうございます。議長が決まるまでの間、進行を務めさせていただきます教育委員会事務局生涯学習課長の平原です。どうぞよろしくお願いいたします。

では初めに、第32期社会教育委員の委嘱状を知久教育長より交付させていただきます。恐れ入りますけれども、お名前をお呼びいたしますので、お一人お一人順番に、教育長が立っている台の前までお越しください。お願いいたします。

（　委嘱状交付　）

○課長　村内委員と堀井委員は本日ご欠席のため、後日委嘱状を郵送させていただきます。皆様、ありがとうございます。今後２年間、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本会議は、会議の正確さを期する上で議事録を作成するために速記者を同席させていただいておりますので、御了承をお願いいたします。

それでは、会議の開催に当たりまして、世田谷区教育委員会を代表いたしまして知久教育長より御挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

○教育長　皆様、改めましてこんばんは。教育委員会教育長の知久孝之です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、御多用のところ、御出席いただき、誠にありがとうございました。日頃より教育行政、社会教育の推進に御理解と御協力を賜り、また、このたび社会教育委員をお引受けいただきましたことを心より感謝申し上げます。長年にわたり委員として御尽力いただいている皆様も多く、大変心強く感じております。これまでの御貢献に敬意を表しますとともに、今後もどうぞよろしくお願いいたします。

社会教育は、子どもから大人まで誰もが主体的に学び、社会との関わりを深める営みであります。区民一人一人の自己実現を支える重要な基盤でもあります。こうした学びの積み重ねが地域の活力を生み、支えあうまちづくりにつながるものと期待しております。特に子どもたちには変化の激しい時代を生き抜いていく力が求められており、そのためには、学校教育に加え、多様な学びの場の充実が不可欠となっています。地域における体験や人との関わりの中で主体的に考え行動し、自らの意見を表現する機会の確保が一層重要となっています。

こうした考えの下、教育委員会では本年４月に学びの多様化学校である「北沢学園中学校」と「ほっとスクール北沢」を旧北沢小跡地に新たに開設いたしました。また、学校と地域の連携を深めるため、学校運営協議会の見直しと協議会の下、設置する活動グループを中心に、地域の皆様が参加しやすい環境づくりを進めているところです。この見直しに当たりましては、社会教育委員である井上教授にも御助言と関係者向けの説明会等での講師もお引受けいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

本日の会議では、皆様の豊かな御経験と専門的な知見を基に、社会教育のさらなる充実に向け、率直な御意見を御頂戴いただければ幸いです。

簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○課長　教育長はこの後所用がございますので、これにて退席させていただきます。

○教育長　失礼いたします。よろしくお願いいたします。

○課長　続きまして、社会教育委員の会議の活動概要について御説明を申し上げます。

お手元の資料の資料１を御覧ください。今回新任で就任される新澤委員以外はもう皆さん御承知おきかと思うので、簡単に御説明をさせていただきます。

まず、１の設置の目的ですけれども、社会教育委員は、教育委員会の行う社会教育行政に関する諮問機関として設けられております。社会教育活動の拡充振興を図るために、広く各界より知識と経験を有する方々の御協力を得て社会教育活動を推進しようとする制度で、教育委員会が委嘱させていただいております。

２、根拠規定につきましては記載のとおりでございます。

３、社会教育委員の職務は４つございます。①社会教育に関する諸計画を立案すること、②定時または臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じて意見を述べること、③社会教育に関する研究調査をすること、④社会教育関係団体に対する補助金に関して意見を述べることでございます。

４、社会教育委員の構成につきましては記載のとおりとさせていただきます。

５、活動内容、社会教育関係団体への補助金に関する意見聴取は後ほど意見聴取をさせていただく場を設けさせていただきます。

６、第32期の活動スケジュールですけれども、別紙資料により後ほど御確認いただければと思います。全８回、２年間にわたって、令和８年度、令和９年度でそれぞれ４回程度を考えてございます。資料１の説明は以上でございます。

次に、委員、事務局の紹介に移らせていただきます。お手元の資料２、第32期世田谷区社会教育委員名簿を御覧ください。恐れ入りますけれども、井上委員から時計回りの順に簡単に所属と自己紹介などをお願いできればと思いますので、よろしくお願いします。

○委員　井上と申します。東京都市大学で教職課程の教員をしております。どうぞよろしくお願いします。

○委員　皆さん、こんばんは。新海美紀と申します。私は元世田谷区立中学校ＰＴＡ連合協議会会長をしておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員　吉田周平と申します。私は元世田谷区立小学校ＰＴＡ連合協議会会長をしておりまして、その後、東京都、日本ＰＴＡと経験してまいりましたので、その知見を生かせればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員　青少年船橋地区委員会会長の佐藤です。子ども支援のためＮＰＯもつくって、代表をしています。どうぞよろしくお願いします。

○委員　特定非営利活動法人こども劇場せたがやの近藤三知香といいます。北沢学園中学校のお話があったときにまた宣伝しますけれども、若者と咲かせるネットワーク・せたがやという、これはＮＰＯ法人は取っていないんですけれども、任意団体の事務局をやっておりまして、そちらのほうで今日、ちょうど７月８日夜７時から北沢タウンホールで、北沢学園中学校の校長先生のお話を伺って、みんなで交流しようということで募集をしましたら、100人以上の申込みがありまして、スカイサロンだったのをホールにしたという。交流をしますので、ぜひぜひ教育委員会事務局の方も……。世田谷区職員の方も20人ぐらい申し込まれていますので、ぜひぜひ皆さん方で出会って、お話を伺うのもそうだけれども、御一緒に子どもたちのことを交流できたらいいなと思っています。そういうこともやっております。

こども劇場せたがやはＮＰＯ法人で、もう50年以上の歴史がございます。子どもを真ん中に、地域で人と人がつながるまちづくりをしていこうという団体ですので、よろしくお願いします。

○委員　皆様、初めまして。今年度よりこちらに参加させていただくことになりました今年度から青少年委員会長になりました新澤と申します。青少年委員になって７年目です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員　区内小学校校長で、烏山地域でございます。こちらでは昨年度もお世話になりました。ありがとうございます。

世田谷区民であります。それから、副校長時代も世田谷区でやらせていただきまして、その前は東京都教育委員会で教育行政にも関わらせていただきまして、現場と行政の立場から何かお役に立てればよいかななんて思っているところです。昨年度も学校教育と社会教育をつなぐようにと、御意見させていただきました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○委員　用賀中学校校長の毛利と申します。私も２年目となりまして、よろしくお願いいたします。用賀中は３年目なんですが、このパンフレットにもありますけれども、今年度から地域運営学校という形に変わりまして、地域の力を使いながら、用賀のまちを盛り上げていく、用賀のまちの力で子どもを育てていくというコンセプトを持ちながら、地域と協力しながら進めてまいります。いろいろな方に助けてもらって、本当にすばらしいまちだなと思っております。

私も世田谷区在住なんですが、小学校も中学校も奥沢だったので、世田谷区でずっと教育をしていたというのがありまして､ぜひこういう場面で役立てたらなと思っております。プリントにもありましたけれども、アドベンチャー in 多摩川にも参加したことがありまして、こちらにも参加してみたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○課長　私は生涯学習課長に着任して２年目の平原です。駒留中学校出身でございます。今いる生涯学習課は、社会教育、子ども向けのイベント等も担当しておりまして、そこでは地域の方々のお力添えをいただきながら、子どものイベントをさせていただいております。それ以外に団体の支援、いろいろな社会教育団体がありますので、そういったところへの支援ですとか、文化に関するいろいろな保存会とか団体の発表会とかにも携わらせていただいていたり、福祉学級では成人の知的障害、身体障害、聴覚障害などの方々が大人になってから学べる場ということで、ボランティアの方の御協力を得ながらやっているところです。

ほかにも文化財の保存、活用、啓発といったところもありますし、世田谷代官屋敷にある郷土資料館ですとか、次大夫堀公園、岡本公園民家園の施設管理とかイベント、そういった形でいろいろ幅広く経験させていただいております。教育委員会に来たのは初めてなので、いろいろ学ぶところがあって、すごく楽しみながらやらせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　生涯学習課社会教育係長の富永です。31期の最後の３月のときは風邪を引いてしまって欠席してしまったんですけれども、今日32期ということで、31期と同じ顔ぶれに

会うことができて安心しました。新しい方も加わって、また32期、いろいろな議論ができるといいなと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　こんばんは。社会教育主事の宗豊と申します。よろしくお願いいたします。青少年委員さんとか、日頃すごくお世話になっていて、また、烏山のほうも担当させていただいていて、皆様から御意見いただきながら１つずつ進められればと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○事務局　皆さん、こんばんは。この４月から団体支援・福祉教育担当係長になりました小川と申します。３月までは世田谷総合支所地域振興課におりまして、主に区民の皆さんのお困り事を伺って現場を見に行くようなことをやっておりました。この４月から初めて教育委員会ということで、後ほど御説明させていただきますけれども、団体支援の補助金の関係ですとか、福祉教育を担当させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局　こんばんは。生涯学習課社会教育係の佐藤と申します。私、第30期社会教育委員の会議のときに事務の担当をさせていただいておりました。ちょっと時間が空いて、また第32期で今年度、こちらの事務担当としてお仕事をさせていただくことになりましたので、また皆様には日程調整の御連絡ですとか、もろもろ事務的な御連絡、私のほうからさせていただくことが多くなるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○課長　では、次第に基づいて４が終わったところでございまして、これから５の議事に入らせていただきます。

　まず(1)としまして、議長、副議長の選出についてですけれども、どなたか立候補ですとか御推薦などはございますでしょうか。

○委員　議長は、やはり経験が豊かでいらっしゃる井上先生に引き続きお願いしたいなと考えております。

○課長　では、副議長の方は、どなたか御推薦、立候補などはございますでしょうか。

○委員　堀井先生に引き続きお願いしたいと思います。

○課長　ただいま吉田委員から議長を井上委員に、また、佐藤委員から副議長を堀井委員にとの御推薦がございましたので、そのようにさせていただければと思います。よろしければ拍手をお願いいたします。

（拍　手）

○課長　では、全会一致ということですので、井上委員並びに、今日は不在ですけれども、

堀井委員にお引受けをいただきますようにお願いいたします。

それでは、ただいま御承認いただきました井上委員には議長としてこの後の議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長　ただいま皆様から推薦をいただきましたので、微力ではありますが、引き続き議長をお引き受けしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

第32期の多くの委員の皆様が留任して力を貸してくださるということですが、新しい委員の方､それから事務局には社会教育の経験豊かな宗さんが加わっていただきましたので、新しい視点を取り入れながら、また２年間、良い議論をしていきたいと思いますので、御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

では早速ですが、議事日程に従って進めたいと思います。

議事日程(2)議事録署名人の指定ですが、毎回作成した議事録を次の回の会議で皆さんにお諮りして承認いただいておりますけれども、おおむね順番に２名の方に署名していただくことになっておりまして、今回は毛利委員と今宮委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

次に、(3)世田谷区社会教育関係団体に関する補助金交付についてです。補助金の交付に当たっては、社会教育委員の会議の意見を聴取することになっておりますので、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　それでは、団体支援・福祉教育担当係長の小川より御説明をさせていただきます。着席のまま御説明をさせていただきたいと思います。

まず、お手元の資料３－１、３－２、３－３、あと別でとじてございます参考資料、その下に終了後回収と書いてある資料に沿って御説明をさせていただきたいと思います。

なお、この別冊の参考資料には各申請団体から提出された事業計画や経費算定の内訳がございますが、個人情報等が記載されておりますため、審議終了後、回収させていただきますことを御了承いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、内容を御説明させていただきます。世田谷区教育委員会では、社会教育関係団体及び区立幼稚園・こども園、小中学校のＰＴＡ連合体に対し、世田谷区社会教育関係団体に対する補助金交付要綱と世田谷区立学校ＰＴＡ連合体補助金交付要綱のそれぞれの要綱に基づき補助金を交付しております。議長よりお話しがございましたが、社会教育法第13条及びそれぞれの要綱の規定により、交付の決定に当たっては社会教育委員の会議の意見をお聞きした上で行うこととなっております。これに基づきまして、本日は資料３－

１の令和８年度社会教育関係団体に対する補助金交付一覧（案）のとおり交付することについて御意見を伺いたく、御説明いたします。

資料３－１を御覧いただきたいと思います。記載のとおり６つの団体がございますが、１から４は資料３－２の世田谷区社会教育関係団体に対する補助金交付要綱、５、６につきましては資料３－３の世田谷区立学校ＰＴＡ連合体補助金交付要綱により、それぞれ補助金を交付しております。以下、補助金の制度等につきまして、それぞれの要綱に沿って御説明させていただきます。

まず初めに、１から４の団体についてになりますが、こちらは資料３－２の社会教育関係団体に対する補助金交付要綱からとなります。まず、要綱でございますけれども、第１条に、世田谷区における社会教育の発展を図り、かつ団体の自主的活動を奨励、育成するために交付しております。

交付対象団体及び対象事業につきましては、要綱第２条第１項に、全区的連合組織を持つ団体及びこれに準ずる団体とし、次の要件を備えていなければならないと、その要件、範囲が定められております。

補助金の交付額ですが、要綱第３条で、補助金対象経費のうち、原則として50％以内としておりまして、予算の範囲内とされております。この１から４の社会教育関係団体の概要及び申請内容について簡単に御説明させていただきます。

まず、１番目の世田谷区社会教育学級連絡協議会の白鷺会は、各総合支所地域振興課が実施している生涯学習セミナーの修了者による自主学級により構成される連合組織です。このセミナーは、様々な分野の講義や実習、文学、歴史、散策などを行い、おおむね60歳からの生きがいづくり、仲間づくりを目指しております。白鷺会は、ふるさと区民まつり、新年子どもまつりなど、区の行事において伝承玩具手作りコーナーを開催しており、好評を博しております。この団体に係る補助金対象事業は、各自主学級の代表者や会員を対象に、テーマを変えて今年度は年間10回行われる研修会です。補助対象経費としては、研修会の実施に係る消耗品費や講師謝礼となっております。

続きまして、２番目の世田谷区郷土芸能保存会です。区内の祭り囃子の保存会14団体と区の無形民俗文化財に指定されている餅つきの文化を今に伝える三土代会の合計15団体から構成されております。

なお、この申請書提出後にまた１団体、新たに加入承認されましたので、現在は16団体の構成となっております。それぞれ地元の祭礼などでの活動のほか、新年のつどい、ふる

さと区民まつり、世田谷区総合文化祭など、区の行事にも出演しております。この団体の補助対象事業はふるさと区民まつりへの参加経費で、主に太鼓など道具の運送経費となっております。

続きまして、３番目、ボーイスカウト東京連盟世田谷地区協議会です。ボーイスカウトの活動内容につきましては社会教育関係団体として広く知られておりますので、ここでは省略させていただきます。世田谷区が関係する行事では、わんぱく相撲、ふるさと区民まつり、せたがや産業フェスタなどに例年参加、御奉仕いただいております。補助対象事業は各団の指導者などを対象に実施する指導者養成事業であり、ボーイスカウト講習会、救急法講習会などの開催経費となっております。

続きまして、４番目ガールスカウト東京都連盟Ｅブロック世田谷地区協議会です。ガールスカウトの活動につきましても、ボーイスカウト同様、ここでは省略させていただきたいと思います。世田谷区が関係する行事では、わんぱく相撲、ふるさと区民まつり、たまがわ花火大会などにも例年参加、御奉仕いただいております。補助対象事業はガールスカウトふれあいの日など、交流活動、指導者研修会、野外研修などの事業経費です。

なお、令和７年度においては、使用実績額が当初の予定を下回ったため、補助金の残金が発生しております。そのため、世田谷区社会教育関係団体に対する補助金交付要綱第３条、13条、14条に基づき残金を返還しております。

以上、今回申請のありました４つの団体は、参考資料に申請内容の詳細がございますが、いずれも要件を備え、対象事業や申請額も適正であると事務局では考えております。

なお、社会教育関係団体に対する補助金につきましては「区のおしらせ　せたがや」の４月15日号及び区のホームページにて、昨年度に引き続いて新規御相談を承ることとしましたが、結果としましては、昨年度交付を行った４団体のみからの申請となっております。

続きまして、資料３－１にございます５、６の関係です。世田谷区立学校ＰＴＡ連合体補助金ですが、こちらの要綱は資料３－３になります。こちらも第１条にありますＰＴＡ活動を通して、社会教育、家庭教育の充実を促すとともに、学校教育との連携を深め、児童、生徒の健全育成の増進を図るために交付しております。

交付団体、対象事業につきましては、要綱の第２条に補助対象となる事業、第３条に補助対象となる団体が規定されております。この補助金はこの３つの協議会に対象を限定したものであります。今年度については、世田谷区立小学校ＰＴＡ連合協議会、区立中学校ＰＴＡ連合協議会より補助申請がございました。

補助金の交付額についてです。要綱第４条の規定のとおり限度額が定められており、今回の申請はいずれも限度額の範囲内となっております。

５及び６のＰＴＡにつきましても、その活動内容につきましては広く知られておりますので、御説明は省略させていただきます。主な申請内容としましては、おのおの会員の意識啓発を目的とした広報紙の発行及びホームページの運用費用や会員同士の学び合い、連携を深めることを目的とした各種ＰＴＡ研修会に関するものを補助対象事業としております。いずれの協議会も補助対象団体に該当し、参考資料の申請のとおり、補助対象事業や交付額についても適正であると事務局では考えております。

以上のように補助金の交付に係る団体の適格性、事業の範囲、経費について、１から６まで、いずれの団体の申請も妥当であると事務局としては考えております。

つきましては、資料３－１のとおり、補助金を交付することにつきまして委員の皆様の御意見を下さいますようよろしくお願いいたします。

御説明は以上でございます。

○議長　ただいま説明のありました社会教育団体に対する補助金交付、全部で６団体が挙がっておりますが、それらの団体に対する交付について御質問や御意見などありましたらお願いします。

○委員　私、前期の第31期の第１回目の議事録を見ながらお話を聞いていたんですけれども、６団体のほかに、区立幼稚園・こども園の件は入っていますか。

○事務局　区立幼稚園などは今回も申請がございませんでした。

○委員　前期はなかったんですね。

○事務局　ございませんでした。

○委員　分かりました。

○委員　第３条にこども園ＰＴＡ連絡協議会と書いてあるのはなんですか。この補助金の対象には入ってはいないということですか。

○事務局　資料３－３の補助金交付要綱には第３条で(1)に世田谷区立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会と入ってはいるんですけれども、申請がなかったということでございます。昨年度もなかったです。

○委員　分かりました。

○委員　ＰＴＡの加入率が下がっていることがよく話題になるんですけれども、どのくらい減っているのかとか、そのあたりは分かるんですか。

○課長　ただいま、小学校、中学校、幼稚園・こども園合わせて98なんですけれども、

○委員　98というのは何の数字ですか。

○課長　学校とこども園の数です。

○委員　数ではなくて、ＰＴＡの加入者のことです。ＰＴＡに加入しない人が増えていると私の周りでも結構聞くことが多いんですけれども、加入率とか、そういうことがどうなっているのか、伺いたいです。

○課長　加入率というか、各学校でのＰＴＡ活動というものがあって、それを束ねているのが今回補助金対象となっている連絡協議会とかなんですけれども、うちから各学校単Ｐ、単位学校に対してどれぐらい入っていますかというような調査を取れていないんですね。

○委員　でも、決算書で会費の入金額は分かりますか。

○事務局　決算書は分かります。ちょっとお待ちください。

○委員　というのは、どんどん減っているのに同じ額をするということは、将来的にどうなのかなと思ったので伺いました。

○事務局　少々お時間いただきます。

○委員　51ページのここに会員数、３万と載っているんですけれども。

○委員　この会員数は多分合っているでしょう。

○委員　それが去年と見比べてどうなのかなというのを知りたい。

○事務局　世小Ｐ、小学校でいきますと、８年度が３万900人となっていると思うんですけれども、去年は３万1645人です。中学校の会員数は、今年は１万333人ですが、去年が１万1059人となっておりますので、小学校も、中学校も少し減っているというところは数字上分かるかと思います。

○委員　大幅な減少率ではないことが今分かりました。

○事務局　全校合計になっているので。

○委員　今の話と多少関連があるかもしれません。今、会報であったり、その他、例えばアンケートでも何でもそうですけれども、ウェブ化がかなり一般的になってきている。ＱＲコードを読み込んでやってくださいというのが割と多くはなってきていますね。もちろんお持ちでない方もいらっしゃることは承知の上です。ですが、多くの媒体であったりするものが紙ではなくて、予算も含めて、ウェブ化されてきている社会の現状があります。それを鑑みても、そういった方向性というのも少しずつ探っていく必要があるのかなとは思います。今の活動に対して、手をつけられるのは私の古巣ですから、そんなことを言う

つもりはないですけれども、時代も時代ですので、そろそろウェブ化ということも検討に入れてはどうかというような打ち返しではないですが、これはどうなんでしょうというところでしょうか。そういったものもひとつ検討材料に挙げていただけるといいかなと思います。

○課長　分かりました。ＰＴＡ加入促進のためのいろいろな周知方法とかは、おっしゃるとおりで、オンライン、インターネット、ＳＮＳを介したいろいろな連絡手段とか広報もしているところでございますが、そういう方向もあるということは検討してまいります。１つのチャンネルとしては大事だと思います。

○委員　１つの考え方として、まずはというところで。

○事務局　実際世中Ｐ連の広報紙、今まで紙で発行していた啓発広報紙をウェブサイトに統一しておりまして、その分、印刷費用ですとか浮いたお金をＰＴＡの研修会費とかに回せるように事業の見直し等を今年度進められている状況ですので、御意見のとおり、時代に合わせて、ＰＴＡ連合体のほうもいろいろと考えてくださっている状況かなとは思っております。

○委員　今の関連です。やはり研修会、私がいた頃にはもう実際にコントロールしていましたので、よく内容も分かっていますし、なぜやっているのかということもよく分かっています。研修によってはこれもリモートで。それでもう逆に参加しやすい側面もありますよね。ですから、費用を削ることが目的ではないですけれども、そういった考え方もお伝えしていく必要があるのかなと感じました。

○議長　では、私から１つ。補助金の申請があった方たちに対して適切な団体であるかどうか判断して、補助金を交付するということで、この１から６というのはそれぞれ皆適切である、また、これまでも申請してきた団体であるということですが、これ以外に出てきてもいいのかなという気もいたしますけれども、そのあたりについて。この方たちが駄目ということではないんですけれども、いつもいつも同じ方だけでなくて、新しい団体が申請されて、より多様な社会教育が行えていくということも望ましいと思うんですが、そのあたりについてのお考えはいかがでしょうか。

○事務局　こちらの補助制度が始まって、平成の中頃は、社会教育関係団体の方で、10数団体、補助の申請があったと記録では確認しておりますけれども、それ以降、全区的な組織というものが徐々になくなってきたりとか、各団体がいろいろ力をつけて自立していく中で、補助の申請がなくなってきたという経緯については、これまでも御質問の中でお答

えさせていただいたことがあったかと思います。一昨年ですか、委員から御意見ありまして、新規団体も募集できるようにということで、昨年度、今年度と新規についても「区のおしらせ」で募集させていただいているということで、新たに全区的に社会教育を促進するとか、活性化するような団体が出てくればということで、予算が確保できたらということにはなりますけれども、来年度についても引き続き、新規団体については募集をかけていきたいと考えております。

○委員　こども劇場せたがやでこういう助成金を取っていなかったので、調べていただいて、御返答していただいたんですけれども、私のほうでもこども劇場せたがやに聞きましたら、今は会員数が200人いないんですけれども、当時は3600人ぐらいおりまして、そのときは１つではできなくて、４つとか、５つとか、それぞれ独立して、こども劇場が世田谷区内にあったんです。それで協議会をつくってやっていたので、こちらに参加していたというふうに私のお姉さん世代の人が申していました。だから、その当時はいろいろな協議会でお話合いもあって、もらっていたけれども、会員数もだんだん少なくなって、今は200人にも満たないんですけれども、こども劇場１つだけ。そこから少なくなったから、だんだん１つになっていったのかなみたいなこともあるので、もしかしたら社会教育関係団体はこういうネットワークをつくるほどにならない御時世になったのかな。数が少なくなって、そういう一面もあるのかなと思って……。先ほどＰ連に加入されているところが少なくなっているというお話もあったけれども､社会教育関係団体の危機だなと思っています。ちょっとずつできたとしても、きっとネットワークはできないのではないかなと。私も幾つかやっていらっしゃるところを知っていますけれども、一緒にみんなでネットワークを組んでやろうというふうにならない御時世なのかなと思っています。だんだんなくなっていくのではないかなという危惧を感じました。

○議長　そうした状況であるということも頭に入れて、どうすれば活性化していくのか、さまざまな施策を考えていただければと思っております。

意見の聴取ですので、皆様からいただいた意見を補助金交付にお役立てください。

では、次の議事に移ります。次は(4)第32期社会教育委員の会議の取り組みについてです。前回の31期の社会教育委員の会議では、資料４にありますけれども、２年間にわたってミドル世代が、ここに書いてあるのを読みますと、区や地域に関わることができるのかについて議論を重ね、そして、「30代・40代のためのからだにやさしい大人の“おうちごはん”講座」というものを実施して、どんな方が集まってくるのか、今後、どのようなこと

を期待できるのか、というようなことを考えてみたわけであります。

31期の最後で、引き続き、ミドル世代にアプローチして行ってはどうか、という方向性が示されていたわけですが、改めて32期が始まりましたので、今期の活動について事務局から説明を聞き、ミドル世代とはどのような特徴があるのか、あるいは今後、どのような会議をしていくのか、先ほど２年間で８回ぐらい予定しているということなのですが、もう少し詳しくお話しいただいて、意見交換をしていきたいと思います。

では、お願いします。

○事務局　では、パワーポイントを使って事務局から説明させていただきます。

改めまして、本日、第32期社会教育委員の会議で、今後に向けて「社会教育行政におけるミドル世代へのアプローチの可能性について（仮称）」をテーマに設計ポイントと具体策を共有したいと思っています。

それでは、御説明させていただきます。これはあくまでも私のたたき台ですので、これを見たり、お話を聞いていただいて、御意見のちょっとしたヒントになれば幸いかと思います。私、ちょっと早口になってしまうかもしれませんが、御了承ください。

しつこいですけれども、社会教育主事の宗豊と申します。よろしくお願いいたします。

最初に、皆様と御一緒しながら、本日のゴールですけれども、３つございます。まず、ミドル世代の定義・特性を共有したいと思います。次に、参加の壁と活躍フィールドを把握していければと思っております。最後に、推し活・聖地巡礼・青年会議所連携など具体的なアイデアを持ち帰っていただけるようなヒントになればということと、また、次回予定しております定例会の中で企画案を持ち寄っていただいたり、こういった方がいいのではないかというような御意見をいただける機会ができればありがたいなと思います。

改めまして、第32期テーマと目的についてです。第32期のテーマは「社会教育行政におけるミドル世代へのアプローチの可能性について（仮称）」が決まっております。目的は「ミドル世代の関心・強みを活かした施策の設計ポイントと具体策」を整理し、実行可能な具体策まで落とし込めるといいかなと思っております。

ミドル世代の定義について御確認をしていただければと思います。ミドル世代はおおむね35歳から55歳、子育て・介護・仕事の責任が重なる時期です。同時に、地域との関わりが再び高まる転機でもあります。この特性を前提に関わりやすい設計が鍵になるかと思います。

主なセグメントになります。「セグメント」とは、全体を分割した一部分、区分のことで

すが、ビジネスでは、ＩＴとかマーケティングなどで幅広くよく使われる概念ですけれども、セグメントは大きく４つ、子育て真っ最中層とか、一段落して、Ｕ／Ｉターン層／転勤族、あと趣味コミュニティ主導層とか、それ以外でもキャリア転換・学び直し層ということで入られている入り口と関わり方を変える視点で重要になってくるかなと思っております。

今度はミドル世代の強みですけれども、強みとしては４点です。実務力、ネットワーク、デジタル活用力、そして安定した消費力・移動力、まちおこしや学びの現場で、現場とか企画、両輪を携える、担えるのがミドル世代の魅力です。

主な動機ですけれども、ミドル世代の皆様は、同期は子どもの成長支援／自己実現、同世代とのつながり／地域貢献、また、健康・余暇の充実、そして推し活・聖地巡礼など情熱を軸にした参加を目指しています。また、好きを入り口にした設計がとても大きいかなと思っております。

続きまして、参加の壁と対応方向。主な壁は５つあります。時間制約（夜間・土日中心）／関わり方が不明確／初参加の心理的ハードル／託児・介護負担／情報の断絶、ここを丁寧にほどいていくことが大切かと思っています。また、対応の方向性としては、対応策は、短時間、柔軟設計／役割の見える化／オンボーディング（育成プロセス）／保育・家族同伴／多チャンネル広報です。また、最初の一歩で軽く小さな成功体験を積める動線をつくっていくことが大切かなと思っております。

まちおこし隊での役割でミドル世代を考えると、ミドル世代には世代の橋渡し（若者とシニア）として、また、現場×企画の実務担当、そして民間連携の推進（協賛：プロボノ・企業ボランティア）の活用も視野に、地域の力を束ねる役割もできると思います。

具体的タスク例ですけれども、「タスク」というのは、助成金申請／予算・リスク管理、ＳＮＳ・メディア広報、アンケート設計と効果検証、また、当日運営・振り返りなどといった形でミドル世代の実務力が最も輝く領域です。

これに対して、行政の支援ポイントとしては、行政の支援は、少額でも迅速なミニ助成とか、共用スペース・備品の提供／包括保険とか保育付き会議・家族同伴ＯＫ／夜間・オンライン併用をしたり、さらに、短時間研修（ファシリ・著作権・安全管理）など、実務に直結する内容を効果的に行うことができます。

そういった中で「ふなっしー」推し活に見る動きということで、推し活の特徴は、仲間意識の強さ、遠征・情報発信の機動力、そして、チャリティ志向／マナー意識の高さです。

情熱が行動へ、行動が地域貢献へとつながる好事例でございます。

ここで、社会教育との接点ですけれども、推し活を入口にした市民リテラシー（著作権・肖像権・安心安全・情報発信）の作法など、ファンコミュニティの自律性を尊重した共創イベントで学びと貢献を両立できます。

施策アイデアと配慮事項ですけれども、アイデアはご当地キャラ連動クリーンアップ／募金／推し活写真展＋マナー講座／親子ワークショップ／スタンプラリー・デジタル徽章など、また、配慮は権利（商標・著作）確認とガイドライン／混雑・騒音対策／安全計画／誰でも参加できる設計ができます。

聖地巡礼を楽しむミドル世代の動機は、ノスタルジー、健康志向、学びと旅の両立、写真・発信の楽しみ、あと楽しみと学びが自然に結びつくよい入り口になっています。

教育的活用の方向ですけれども、歴史・地域文化の解説付き周遊とともに、博物館・図書館・学校連携プログラム、地元ガイド育成／ＡＲ・クエスト形式／ナイトツアー等の時間帯多様化､体験に学びを重ねる設計でかなり価値が上がってくるかなと思っております。

そのほかにジュニアリーダー経験者の価値です。ジュニアリーダー経験者は、体験活動・青少年育成のノウハウを持つ即戦力です。親になり再関与意欲が高い層でもあります。なので、再び役割提示と呼びかけで力を発揮していただける年齢かなと思っております。

そういった中地域で活躍するミドル世代の主なフィールドですけれども、活躍の場はＰＴＡ・学校支援／スポーツ少年団／自治会／消防団/ＮＰＯ／市民大学／図書館サポーター／商店会など、既存の場に短時間、柔軟、家族フレンドリーの工夫を持ち込めるかなというところでございます。

ＪＣＩ（青年会議所）におけるミドル世代アプローチにおいて、ＪＣＩは20から40歳中心で行っています。こちらは、上限世代・ＯＢ／ＯＧ・商工会議所青年部と連携し、ミドル世代の力を地域教育に接続します。共同でモデル事業を企画とか、運営、評価まで一気に通す進め方をしているということです。

ここでまとめになります。まず、興味でつなぎ、学びで深め、役割で定着させるということで、ミドル世代の方々の鍵は３段階。まず、興味でつなぎ（推し活・聖地巡礼)、学びで深め（リテラシー・ガイド養成)、役割で定着させる（メンターバンク・表彰)。こちらの「メンター」というのは、経験豊富な先輩や指導者、いわゆる企業などでは若手社員や後輩の成長を支援する助言者、指導者として活躍する方々がちょうど30代、40代、50代ということで、そういった方々のバンクでつないでいくことも必要かなと思います。

社会教育行政の役割として、社会教育行政はコーディネーター・認証／評価・セーフティの担い手として現場の自立性を尊重しつつ、要所で背中を押す仕組みが求められるかなと思っております。推進の仕組みとして、短時間・柔軟・家族フレンドリー・デジタル併用の仕組みで推進して、地域の推進主体（ＪＣＩ等）とタッグを組み、小さく試してデータで学び次へつなげていくことが大切かなと思っています。

全体スケジュールになります。議長からも御報告ありましたけれども、第32期社会教育委員の会議なんですが、本日６月にスタートさせまして、今年度、令和８年度は全部で４回を予定しております。令和９年度にまた４回ということで、全８回の中でスケジュールを組んで進めていけるといいかなと思っています。研究・調査項目ですけれども、調査は、ミドル世代に必要なもの、参加を妨げる要因、活躍のメリット、成功事例の抽出、生き生きと活躍するヒント、また、参加すべき団体の特徴を整理した上で、さらに、令和９年度にモデル事業のプログラム設計、助成金に関する意見聴取、また、区の事業で、こういったことはできないかというテーマの説明に進めていけることがすごくありがたいなと思います。

ただ、第32期活動スケジュールと会議運営については、これから皆様方の御意見をいただきながら、１つずつ確認しつつ進めていただけるとありがたいと思います。また、貴重な時間ですけれども、会議は18時30分から20時30分の２時間の夜間帯で行いますので、お時間の御調整をいただけるとありがたいと思います。

仮の日にちも入れておりますけれども、本日お休みになっております堀井先生にもお聞きして、第２回目ですけれども、９月後半から10月上旬ということでお聞きしたですけれども、10月上旬から中旬に日程のほう、幾つかいただいておりますので、この会議が終わり次第、メールでまた調整させていただきたいと思いますので、スケジュールのほう、またよろしくお願いします。

まずは、31期、前期を考えたときには、ミドル世代について御意見をいただきまして、できればミドル世代についての意見を聴く勉強会ということで、具体的にミドル世代の方で活躍されている方とか、地域で生き生きと活動されている方とか、そういった方の御意見を聞いて、勉強会でまとめて、モデル事業はこういった形ができるのではないかということで、そのパネラーの方、委員の皆さんから御意見をいただいて、できれば皆さん方で考えていただいている事業を現実的に近づけていけるといいかなというところで今日、パワーポイントで説明させていただきました。

すみません。御清聴ありがとうございました。

○議長　ありがとうございました。最初のスライドに戻していただけますか。ここにあるように、「社会教育行政におけるミドル世代へのアプローチの可能性について（仮称）」考えてほしい、ということのようです。

最後のスライドに予定が書かれていましたが、今日は６月の第１回ですが、次回、10月頃に２回目、そして、11月に３回目。そのようなスケジュールで、ミドル世代の強みとか、特徴などを考えながら、ミドル世代に地域社会で活躍してもらうことためにはどうすればいいのか、何が阻害要因になっているのかを明らかにして、２年目のどこかで実際に何かやってみましょう、というような提案でした。

前回、ミドル世代の問題を考えるためには、社会教育委員の会議にミドル世代の委員がいないのであれば、ミドル世代の方をお呼びして話を聞くような機会がほしいという御意見が出ておりましたが、今回はそうしたことも考えていきたい、ということのようです。

前回、ミレイさんの料理教室を実施しましたが、その際には、「ミドル・シングル」を念頭に置いてといういわば裏のテーマがありましたが、お子さんがいらっしゃる方ではダメだという話でもないのではないかというご意見もあり、今期はそうしたあたりも柔軟に考えていくことにしたいということです。

○委員　目的がミドル世代の関心・強みを活かした施策の設計ポイントと具体策ということは、施策をつくることが目的ということでいいんですか。

○事務局　施策まで考えられるといいんですけれども、社教委員の皆様からこういった御意見がありました、こういった施策のときに、こういったミドル世代の方々はなかなか世田谷区に関わりが薄くなっていく可能性がある。そういった提案で、こういった方々が企画した、こういった事業をやると、もしかしたらその方々が、お仕事を持っていたり、いろいろな環境であろうとも参加しやすいのではないかという状況をつくれますという御提案をさせていただく形になるので、それが具体化するまでは、また予算をつけたりとか、施策に乗るまではちょっと時間がかかるんですけれども、それを目指していきたいと思っています。

○議長　もう少し分かりやすく言うと、社会教育委員の会議で施策をつくるのではなくて、施策へのヒントになるような議論が期待されているということですね。

○事務局　はい。

○委員　もしもそういう対象、35から55歳までの方、私、いっぱい知っているんですけれ

ども、その方たちに話を聞きたいという場合、私が声をかけるわけではないですか。だから、それはアドバイス、意見を聞いて、それを施策に生かしたいから意見を聞かせてくれないかなと声をかける感じなんですか。

○事務局　そうですね。それも含めて、まさに生の声として、35歳から55歳の方々の中でどういったことで参加しづらかったとか、逆に言うと、こういった目的はすごく参加しやすかったとか、そういったことをまず整理して、その上で委員の皆様方からも御意見をいただいて、施策に向けて準備をしていければという感じではあります。

○委員　もしその方々に声をかけるとしたら、わざわざ来てもらうので、意味があるところに来てもらうというふうに言わないと、すごく忙しい人に話を聞かせてというので……。だから、どこまでその話を生かせてもらえるのかとか……。

○事務局　例えばある人物とかだと、自分が若いときに学んでいた駒澤大学のゼミの中で用賀フェスタの実行委員として参加したと。大人になって、商店街をもう一回盛り上げたい。だけれども、商店街の実行委員には人生の先輩方が多くて、若手が入ることがなかなかなくて、また、マンパワーとしては求められるけれども、そういったものを企画する楽しさとか喜びはということで、ミドル世代なんですけれども、その方が中心になって活躍されている。それがもう何年間か続いている。そういった実況をお話ししていただくのにお見えいただいたりとか……。

○委員　御自分の体験をここで話していただく。

○事務局　そうです。それは私個人が考えた１つの例として受け止めていただけるとありがたいなとは思うんですが……。

○委員　そこに集まりをつくるのではなくて、その方をお呼びして、私たち社会教育委員が学ぶということなんですか。

○事務局　まずは、今年度、そういった方がいるというか、また別の地域では、そういう地区委員会からジュニアリーダーを育てて、そのジュニアリーダーの方が大人になったときにまた、自分の地域でもう一回子どもたちを育てていくようなことを事例としてやって、その方がまた青少年委員の中におられたり、そのお母さんが青少年委員であったりという３代で地域を支えている方も事例としてあったりするんですけれども、そういったいろいろな地域の好事例というものや、循環でどのようにミドル世代の方が関わっていけるのかを少し探っていくためにも、学ぶ機会があるとまたいいのかなという切り口の１つの例なんですね。

○委員　お話を聞いて、ここで考えるのは施策に生かせるポイント。
○事務局　その後は、場所をとって１つのモデル事業。前期、31期でつくっていただいたようなモデル事業もすばらしいとは思うんですけれども、さらに、今度はミドル世代の方々の好事例を基に、また、委員の皆様からも御意見をいただいて、その方の企画も含めたモデル事業ができるといいのかなとは思っているんですね。それがまた、学校を現場とするのか、また、地域でそういったイベントをつくっていくのか、新たなやり方として、何かきっかけとして定期的にやれるよというヒントをいただけるのか、そういった探りはあるのかなと思っています。
　ただ、推し活とか、街コンとかは世田谷区でもやってはいると思うので、どういった感じがアプローチの仕方として一番効果的で、具体性があるのかを調査したいというところはございます。
○委員　すごくリサーチが大事だと思います。子どもたちも総合的な学習の時間に何をやりたいのか、必ずアンケートを取るんですね。そうしたら、ピザを作りたいとか、ジャムを作りたいとか、大豆と枝豆を作って食べたいとか言うんですね。そういうリサーチしたものでやると、すごく生き生きとするわけなんです。なので、35から55歳の悩みのところは今タブレットで調べても出ないんですけれども、リサーチするためにアンケートをつくって、事前調査というのがあるとよいのではないかな。そうすると、求めているものに近いものがいけるのかなと。初めから料理というのもありましたけれども、そのような皆さん、に、ターゲットに聞けるようなチャンスがどこかにあるのかどうかというのは私もよく分からないんです。学校なら保護者に聞くことはできるんですけれども、もしシングルに限らないのであれば、保護者向けのアンケートをつくることは可能ですし、アンケートの内容も精選したものが大事かなと思ったりしています。
○事務局　アンケートも、先生がおっしゃっていただいたように、以前、いろいろ調査をするときに、どういう対象、ニーズがあるかというのでよくアンケート調査をやっていくんですけれども、その取るときの対象は先生おっしゃっていただいたように、ミドル世代の保護者の方とか、ＰＴＡの方とかからの意見をぜひいただきたい、ニーズを調べたいなと思っているので、幾つかまた考えていきたいなとは思っていますので、また先生にはお付き合いいただければなと思っています。
○議長　アンケート調査をするのであれば、しっかりと準備をしてやらなくてはなりませんね。

前回、ミドル世代をテーマとするのであれば、まずはミドル世代の生の声を聞くことが大事ではないか、というご意見がありましたので、ぜひ、そういう機会を作っていただければと思います。

○委員　子どもの権利条例を世田谷区で制定したんですけれども、私、その前の青少協でやったときに、今の若者の調査をするというので、いろいろなところに調査というか、面談に行ったんですよ。面談して、その方に幾つかアンケートがあったんですけれども、実際お話をして、聞きたいことを聞いて、それを集めたんです。ただ紙でやって集めるよりも、もしかしたらそのほうが自分の体験とかを聞いたりとか、施策で足りないところはどこなのかな、何で集まらないんだろうとかみたいな御意見を聞くんだとしたら、私たちは、ペーパーではなく、実際に会ってお話を聞いてこないといけないかなとは思いました。

○委員　私も今回からなので、いろいろなことが分かっているわけではないんですが、私は35から55ぐらいまでの子育て中の親、仕事をしている親とかには結構関わるので、いろいろ話を聞くんですが、生活で手いっぱいで、そういうところまでなかなか目が向けられない方たちが結構多いので、例えば仕事をしている人でも、仕事が終わったこの時間はと言っても、この時間までに帰らないと家のことがとか、子育てしている方はこの時間になったらしなければいけないことがいろいろあるとかいうので、余裕のある方というのはなかなかいないなと率直に思うんですよ。それでも動く方は、これがやりたいとか、さっきも出ていましたけれども、推し活とか、これが好きとかいう方たちは、それに関してはすごく動くなとは思うんですけれども、それを私たちが見つけて、これ、どうですかというのはすごく難しいなと思うんです。今は情報がいろいろなところからものすごく入ってくるので、そういうところに敏感になっていく人たちは、そちら側にどうしても行くので。例えば社会教育。　本当はこういうことのほうが大事だと私たちが思ったとしても、それに向いてもらうかどうかというのはすごくハードルが高いなというのは現実的にいろいろな……。私は今、小さい子たちを持つ親のところで仕事をしているので、本当に日々で精いっぱいなので。特に30代ぐらいの結婚している方たちというのは手いっぱいなので、なかなかそういうところに目を向けられないし、ＰＴＡの方たちとも関わることがあるんですけれども、ＰＴＡの人たちもＰＴＡを抜けたいと言うぐらいの感じの人たち、もう仕事で手いっぱいです、無理です、ほかのことはできませんという人たちが多い中で、それでもこういうところに向いてほしいというのはすごくハードルが高いな。それでも欲しい、メリットがあるから行きたいというようなものがすごく必要なんだろうなと思っていま

す。

私、青少年交流センターにも関わっているんですけれども、そこでもどうしたらここに来てもらえるのかという話が結構あるんですけれども、ほかに行くところがいっぱいあるので、それでもここにというのは何だろうと今すごく考えているところではあるので、そういう意味ではすごく難しいことだなと、今聞きながらすごく思っていました。ここで、これがいいのではないか、あれがいいのではないかという難しさというのは確かにすごく実感します。だから、聞いてみたいなとは思います。そういう人たちにどういうものだったら、それこそ社会教育という形だったらどういうことに興味があるのかなというのは、本当に人それぞれ、いろいろ聞いてみないと分からないことだなとすごく思います。

○議長　いわゆる質問紙調査の形式で、あなたは何に興味がありますか、と選択肢を10個挙げて、選ばせるというような方法よりも、インタビュー形式で、ミドル世代の方たちに直接、いろいろは話を聞いたほうがいいのではないか。そうした中から、政策にも役立つような観点が出てくれば・・と期待されていると理解したのですが、そういうことですね。

○事務局　はい。

○議長　ということだそうです。

○委員　自分たちも昔はミドル世代だったわけなので、それを思い出してということでもいいですよね。

○議長　そうですね。まあ、時代は変わっていますけれどもね。

○委員　情報とかね。

○委員　むちゃくちゃ昔なんですけれども。

○委員　でも、ミドル世代というのは55歳までなんですか。

○事務局　おおむねです。

○議長　今のシニアは、いろいろな意味でお若いですしね。

○委員　そういうことか……。もうちょっと若いのかと私は思っていたので。ミドル世代というのが。

○議長　定義によると思います。専門家によっても、定義が異なるかもしれません。

○委員　世田谷区は一時期39まで若者とかいう時期があったではないですか。今は年齢を取り外されてあれですけれども。

○委員　そもそもみたいな話になってしまいますけれども、結局ミドル世代にどうなってほしくて、これはやるんですか。

○事務局　私も31期の定例会の議事録をちょっと見させていただいていて、最初、このミドル世代の方々、いわゆる35から55歳の位置づけは、今、委員のお話にもあったんですけれども、忙しくて、区の事業になかなか参加していない、参加できない。あと、どういった形でその方に還元というか、区の恩恵が行く可能性がやっぱり薄い。そういった方々への政策は、逆に言うと、いろいろなことが薄いというところで、そこの部分の調査、ヒントというものを社教委員の中から生まれるではないですけれども、探し出せればいいかなというところで、ミドル世代が注目されたのかなと理解したんですけれども。

○議長　教育委員会は、お子さんのいらっしゃる方たちとは学校（ＰＴＡ）などを通じて関わりが持てますし、シニアの世代にいろいろなパイプがあるようです。しかしながら、ミドル世代にはうまくアプローチができていない。そもそもミドル世代は、行政に期待していないふしもある。行政としては、ミドルの人たちにミドル世代のうちから地域社会に関わってもらいたい。ミドルがシニアになってから地域社会に関わるようでは、地域社会が維持できないと危惧している、というような話だったと思います。教育委員会は、そうしたことを考えて、私たち社会教育委員の会議に期待しているわけですね。

○委員　お子さんが公立の小学校、中学校に行かれた世帯ではＰＴＡの活動なんかもあるので、そこには、どちらかというと、区から、教育委員会からも発信しやすいし、受け取るほうも受け取りやすい。けれども、シングルの方、お子さんを通してそういう活動がない方にはなかなか発信できにくいということで、前期はシングルにアプローチしようということだったので、今回はそこはもうシングルでなくても、ミドル世代全般でやっていこうということでいいですか。

○議長　お子さんのいらっしゃるお父さん・お母さんにとっては、「学校」はわりと身近なところでしょうが、子どものいないミドルの方たちにとっては、例えば、選挙のときぐらいしか、いきませんよね。「学校」は「公共の施設」ですから、子どもがいるか、いないかに関わらず、訪れるたり、使ったりすることができる場所にしてもいいはずです。子どもの数は減っているので、学校の有効活用を考えるためにも、いろいろなバックグラウンド・経験を持つ人たちが議論することは大事ですね。

○委員　そういうことを聞けるような団体さんがあればいいですね。やっぱり街頭アンケートでは難しいですね。

○議長　なかなかないですよね。

○委員　そういう団体さんはなかなかないんですか。33から55歳……。

○委員　私は、この会が本気で調査するということでいいのではないかと思うんです。どういう調査の方法があるのか、どういう項目があるのか、分からないですけれども、みんな調査をするバックグラウンドを持っているわけですよ。聞ける人たちはいっぱいいるので、何を聞くかをここでみんなで考えて、調査する会になったらいいのではないかと思って提案します。

○委員　私も今、思い出したんだけれども、私、世田谷に転入したのが多分50代だったんですよ。55になっていなかったかもしれないんだけれども、すごい寂しくて。ほかの地域で子育てをして、渋谷に１回出て５年、それで世田谷に戻ってきたので、もう何にも接点がなくて、私、こういうたちなので、こども劇場には入っていたんだけれども、こども劇場の空白地域だったんです。会員がいなくて、毎日泣いていました。児童館には行ったけれども、子どもがいるわけではないから、職員に挨拶するだけで、自分はどうしたらいいんだろうと思って、すごい泣いていました。それを今思い出しましたから、多分いますよ。

　私も、だんなさんが仕事をもう辞める、辞めて何をするんだろう。辞めたら、もう何もしないで、しばらくゆっくりしたいなんて言っているのよと言うんだけれども、接点がない。全然地域のことをやっていないから、だんなは接点がないのよ、誰もいないのよねと言っているので、その前に接点、つながりとか。私、マンションに住んでいるけれども、なかなか接点はできませんから。マンションで近所付き合いしようと思うと、かなり大変。だから、なかなかと思って……。いや、私、頑張りますよ。35から55、いっぱい知っている。もしそういうアンケートでちょっと詳しく……。

○委員　アンケートに答えることで気づいたりすることがあるではないですか。それも狙いながら。

○委員　その年齢なら、お子さんがそうでしょう。

○議長　私は、大学院の頃から調査をたくさんしてきましたので、調査の重要性とともに大変さも身に染みています。社会教育委員の会議で、アカデミックな意味できちんとして調査を実施するのは難しいとしても、ミドル世代の方に何人が集まっていただいて、委員の皆さんが「これは聞いてみたい」ということを率直に聞いていく、そして、本音の部分に迫っていくようなことができれば、それはそれで大きな意味があると思います。

○委員　多分すばらしいコミュニティーができ上がっているんですよ。だから、その中での御意見しか多分集まらない。

○委員　でも、今の若い世代が何を考えているのか、知りたいです。

○委員　参考の論点にはなりますよね。
○議長　本格的な調査をしようとするとサンプル構成をどうするか、というようなことも問題になりますが、今回、私たちがやる場合には、いわばプリテストとして、周囲の人にいろいろ聞いていって、その人のナラティブを引き出していく、ということでいいような気がします。
○委員　今、若い人たちは必ずスマホを使いますから、それのアンケートだったら割と集計も簡単に、瞬時にできたりとか……。
○議長　クラウド上に作成した質問項目にスマホを使って入力してもらえば、アンケートの集計などは楽にできますが、「スマホで入力」に対応してくれた回答者ということそれ自体で、一定の傾向性が出てしまいます。
○委員　ミドル世代について意見を聴く勉強会みたいな感じで、その対象の方に来てもらって、皆さんが聞くというのだと、そういうことになるということですか。
○委員　今みたいにいろいろ聞いていくと、やっぱり見えてくるものがということなんですか。
○議長　そうですね。知り合いの方に来ていただくことも、教育委員会に集めたいただくこともできますね。いずれにしても、サンプルとしての偏りはあるにしても、そこに集まっていただいて方たちの経験や感情に寄り添いながら、「その人たちの言葉や視点」を理解していくことで、いろいろな気づきがありそうですね。なので、ミドル世代の話を聞く機会を作れたら良いと思いますし、それを最終的にどうまとめていくかということだと思います。
○委員　聞いていいよね。
○委員　いや、私はやってみたいと思っていたので。
○議長　基本的には、皆さんがやってみたいことをやっていただくのがいいと思うんですよ。だって、やりたくないことをやってと言われても、嫌ですよね。
○委員　嫌、嫌。
○委員　若い人が何を考えているのか、知りたいです。
○委員　私、ここを受けるときに、私、もう受けたくないんですけれどもと電話で事務局と話をしたんですよ。何でかというと、いや、すごく意味はあったんですよ。いや、２月にやった事業、すごく意味はあったんだけれども、私の文化活動でやっていることだったんですね。またそれをやるだけで終わるのかと思うと、私ではなくて、もっと若い人とか。

私は団体のほうで出てきているので、こんな年に声をかけないで、ミドル世代ぐらいの団体の人に声をかければいいではないですかと、事務局には申し訳なかったんだけれども、すごい嫌々をしたんですよ。でも、今度は違うから大丈夫だよ、思ったことを言ってくれればいいよと言われて、ああ、やりたいことを言っていいのかと思って受けました。

○委員　なかなか難しいテーマだったので、私もどうやったらいいか、本当に分からなかったんですよ。どうやっていいか、分からなかったので大変でしたけれども、リサーチというか、聞いていいのだったら……。でも、項目は、何を聞くというのは皆さんで考えたいです。どういうことを聞くかというのは。それで聞いていきますので。

○委員　本日のゴールが一応設定されていますが、このあたりが見えてこない……。

○委員　実を言うと、私はミドル世代ど真ん中で、最近になりまして50になってしまったんですけれども、すごく心配なのはやっぱりつながりだと私は思うんですね。この後、何年かたったときに、友達がいるかな、いないかなとか、友達も地方に行ったりとかして、だんだんいなくなってしまったときに、この後、気さくに友達ができるかなとかいうのもありますし、私も子育てが大体終わりまして、大学４年ともう卒業しているので、手がかからなくなったというのもあるんですけれども、そうなってくると、高校生を卒業させた同級生とか後輩とかでも、じゃ、ちょっと時間ができたから遊ぼうよとか、今度飲みに行けるようになったよとかいうのはあって、時間ができたら、やっぱりまた前みたいにつながりを求めたいなとか、もう一回、第二の青春ではないですけれども、みんなで遊ぼうぜとか、ドライブに行こう、キャンプしよう、ゴルフしようとかいうのはあるのかなと思うので、誰しも不安だと思うのはつながりを今後の……。戻っては変なんですけれども、終わった後にどれだけ仲間が残っているかがすごく大事なのかなと思うんですよ。私も正直そこは不安なので、じゃ、地域に出てとか、お祭りの行事に出たよとか、仲間で一緒にやっていこうぜというのはあるのかなと思うので、やっぱりつながりは大事にしていきたいなと思うんですよ。

　結婚していない男友達が何人かいるんですけれども、おまえ、やっとこれで遊べるようになったよなと言うんですよね。子育てが終わった、じゃ、遊ぼうぜというので、その人たちは僕たちのことを待っているという状態だったんですね。そういうのがとても印象的だったので、やっぱりつながりというのはすごく大事だなと思うので、そこは強調したほうがいいのではないかなと思いました。

○議長　委員が話されたようなことを、社会調査では「ヒアリング」とか「インタヴュー」

と言います。知り合いに「ヒアリング」するのでは、一般化できないかもしれないけれど、多くの人に共通する点もあるだろうから、そうしたものをうまく整理していけば、具体的な政策に繋げていくようなヒントが見つかるかもしれない、ということですね。

○議長　「ゴール」について気になっている委員がいらっしゃるようですが、今日の「ゴール」はどうするんですか。

○委員　気になりましたので。ここに書いてありますから。

○事務局　本日のゴール、イコール持ち帰るものは３点ということで、ミドル世代の共通理解。今お話しされていましたので、これがまず１つ、共通理解ができたのかなというところで、定義と特性を振り返っていただいて話合いをしていただいた。

２つ目は、今お話にもありましたように参加の壁と対策の具体像。だから、どういったことで参加が難しいのかとか、フィールドとか、そういったものをイメージして、把握していただく。

３つ目として、推し活とか興味がある、好きだとか、聖地巡礼とか、青年会議所、同じような世代の方々が活躍している方々と連携したりして、実行可能なアイデア、こういった形で活躍されているものを学ぶようなプログラムとか、そういったものを皆さんで共通に持てればいいのかなというところが第１回目のゴール地点だったと思います。

次回までに、今度は御自身の地域とか、活躍されているフィールドとか、コミュニティーの中で、私の案ですけれども、小さくても試せる。何かしら具体的にイメージできる、そういったものを持ち寄っていただいたりすると、もっと具体的に一歩進むのかなと思っています。今日はかなり御意見をいただけましたので、それをまた持ち帰っていただいて、具体的にこういう方、こういう方というのをイメージしていただくといいのかなというところでございます。

というのが３つのゴール地点というところで、今日は御理解いただければありがたいと思っています。

最後に、今もお話しありましたけれども、好きこそ物の上手なれということわざがありますように、人として、興味でつなぎ、学びで深め、役割で定着させるということが言われると思うんです。ミドル世代の力は地域の推進力にもなりますので、委員の皆様方と一緒に楽しく、実際にお話をしながらイメージして、できれば前回の具体的なモデルもありましたけれども、そういった形でミドル世代が実感というか、どういう思いでやっていくのかを御一緒して考えていけるといいのかな。それをヒントにいただいて、また施策に生

かせるようにしていけるといいかなというのが今日のまとめとゴールになると思っています。

○委員　推し活、聖地巡礼というのは事務局のアイデアといいますか……。

○事務局　いろいろ調べて……。船橋のほうではふなっしー、烏山ではからぴょん、世田谷もいろいろなモチーフがあるんですけれども、そういったものを追いかける方々がちょうど35から55の方々……。

○委員　例えば推し活、聖地巡礼というと、新海誠さんのアニメとかの聖地も当然あるわけだし、推し活で言うと世田谷もいろいろなものがありますよね。そういったところを多分イメージされているのかなと思ったんですけれども、そういうことですか。

○事務局　そうです。

○委員　じゃ、これは、そういった資源だったり、財産を生かしてやることができるのではないかというような取っかかりですね。

○事務局　はい。

○委員　分かりました。

○議長　先ほども話に出ていましたが、ミドル世代の方が「何かに参加しようか、どうしようか」というときに、ある種の「壁」のようなものがありそう、ということなのですが、その辺りを聞いてみたいですね。

○委員　そうですね。

○委員　地域に出ない理由は何なのかが知りたいです。

○議長　委員も、同じような関心がおありなのですよね。

○委員　そうですね。

○議長　「地域に出ることはいいこと」という前提で話が進みがちですが、地域に出るどころではない。まずは生活が大事」という状況かもしれませんし、時間的な余裕ができたら、こんなことならやってみてもいい」ということなのかもしれません。では、その「こんなことなら」とは何か、そういうことを聞いてみたいですね。

○委員　地域に出なくても、つながりがあるから十分なのよという人がいれば、どういうつながりなのかというのを聞きたいです。

○議長　周りは、みんな結婚してしまったので、遊び相手がいなくなってしまったけれど、ミドルになれば、昔の仲間も子どもの手が離れて、時間ができたようだから、また、一杯やるかとか、一緒にゴルフやるか、みたいなことが起きてくるかもしれませんね。

○委員　うん。
○議長　そうしたあたりの状況を把握するためにも、皆さんの周りにいるミドル世代に当たっていただいてからでないと、次の具体的なアイデアは描けないのではないですか。
○委員　行政側のイメージとしては、既婚者、家庭持ちなのか、それとも、どちらかというと独身のイメージなのか、その辺はどうですか。
○事務局　いや、もうそこは関係ないと思います。
○委員　皆さんのお話を聞きながらいろいろ考えていたんですけれども、男性の方でだんだん年齢が上がってきて、私、大学でもちょっと役員をやっていたときに、高校までは女性の方がいっぱい出てくるんですけれども、大学になると男性の方が出てきて、そろそろ仕事も落ち着いたけれども、何にもないから、最後にやってみようかなという方たちが意外といらっしゃって、それでみんなで飲みに行くとか、野球を応援に行くとかやっていたのをさっきの先生のお話を聞いて思い出して、ある年齢になって求めたときに、そういうものがあればいいですけれども、そういうのがないと、どうしようかみたいな感じで先ほどの話みたいになっている。私、町会に行っても、ぽつんと入ってこられる男性の方がいっぱいいるんですけれども、つながるのが下手なんですよ。周りとつながるのが下手な人がいっぱいいたりして、そういうところに力を入れると、もしかしたら地域が活性化するのかなと自分の中で思っていました。
○議長　そういう話が求められているのではないですか。
○委員　じゃ、いろいろなところのいろいろな話を持ってくればいいということですね。
○議長　なので、委員には、ぜひ周りにいる方にヒアリングをしていいただければ・・。
○委員　でも、どんな聞き方がいいのか、どんなワードがいいのか、そういうことが分からないので。
○委員　今おっしゃっていたのは、参加の壁と活躍フィールドを把握という……。
○議長　今そこに挙がっていますからね。
○委員　ということの言葉を何か考えて、聞くという話なんですか。
○議長　そうですね。
○委員　活躍フィールドというのは、その人の活躍したいものだったりとか、今もし活躍しているんだったら、その活躍しているものとかということですか。
○事務局　はい。
○委員　その人が何を大切にしているかというのもありますね。

○議長　人によって違うと思うんです。活躍しているフィールドがある人もいれば、ない人もいるし聞きたいことがあれば、それを言葉にして伝えていって、相手がちょっと違うふうに捉えてしまったなと思ったら、修正しながら聞いていくというやり方でいいのではないかと思います。

○委員　内緒で相談しましょうか。

○委員　だから、そういう紙を先生がつくってくださったら、私も一生懸命持って、いろいろな人に配りますけれども。

○委員　私はてっきりここでつくってくれるのかと思っていたので。

○議長　いやいや、ヒアリングはフォーマットがありさえすればうまくいく、といわけでもないので。

○委員　そうか、大変なんだ……。

○委員　きっとそうなんだと思います。

○議長　そんな片手間にできるものではなくて、ちゃんと予算をかけて準備しないと、良い調査はできません。

○委員　参加の壁の参加というのは行政の活動とか、施策とかに参加しないとか、参加の壁があるということを聞けばいいんですよね。それとも、市民活動とかも含めて参加……。

○委員　在り方によっていろいろ……。

○委員　何でもなんですか……。ああ、そうなんだ。

○委員　ここは大学とタイアップして取り組むと……。

○委員　予算がないと駄目。

○委員　だから、予算をつけてと、私、後ろに向かって言っていますよ。

○議長　「参加の壁」というのは、例えば、市民運動をしていない人に、「あなたは、なぜ、市民活動をしないんですか」と聞いても、「しない理由」はストレートにはわかりませんよね。普通の人はあまりしませんから。

○委員　しません……。

○議長　でも、「誰かとつながりたい」というような思いは持っているかもしれません。

○委員　その意識だと僕は思うんですよ。

○議長　普通の人でも、多分、自分が皆さんの役に立てばいいな、という気持ちを持っていらっしゃる人はたくさんいると思うんですよ。でも、それを「市民活動」とか「社会貢献」とかと括られてしまうと、「ちょっと違うかな」と感じるのでは。

○委員　だから、推し活とか、聖地巡礼とか……。

○委員　世田谷が本気でやろうとしているなら、やっぱりそこはお金をかけないと。

○委員　好きなものには自分から動けるという……。

○委員　ちなみに、世田谷はアーティストバンクなんかとはつながりは……。

○事務局　そういうつながりも、例えばせたがや区民まつりのときとかにお呼びしたりとか、そういった対象は大勢ありますけれども。

○委員　貧困の調査をしたではないですか。私、あれの結果はすばらしいなと思いながら拝見したんですけれども、ミドルに対してもあのような調査はできないものでしょうか。

○委員　貧困調査。

○委員　子どもの貧困の調査を５年ぐらい前にしていると思うんですけれども、設問の仕方もすばらしい。海に行きますか、家族で海水浴に行きますかみたいな……。

○議長　私は、大学院生の頃からいろんな調査プロジェクトに参加してきました。質問紙調査で、例えば、社会階層的な視点から分析をしたくても、「世帯年収はいくらですか」と聞くわけにもいかないので、「家庭に本は何冊くらいありますか」とか「休日に美術館に行きますか」と聞いたりします。

○委員　夏休みに映画に行くとか。

○議長　ええ、そうです。いわゆるアンケート項目は、すでにあるものを利用することも多いのですが、これまでの調査では明らかにされていないことを明らかにしていくためには、「新しい質問項目」が必要ですが、そうした新しい質問項目を作っていくのは本当に大変なんです。どうやってつくっていくかというと、本を読んだりしながら、一人で考えていくこともありますが、ダーゲットとなるような人に何人か集まってもらって、話を聞きながら、「手応え」があったものを「新しい質問項目」に落とし込んでいく。最初からうまくいくわけではないですが、あれこれ試しながら探っていきます。先ほどからお話している「ヒアリング」とほとんど同じプロセスですね。

○委員　でも、それだと、私の周りの人たちだけなので。

○議長　そこからスタートですよ。

○委員　そこからもっと違うところに行く可能性がある。その人が、じゃ、自分の家族に聞いてみるわという可能性もあるわけなので、そのようにつなげていくには何か１つのまとまったものが……。

○議長　限られた範囲の知り合いであっても、そこでヒアリングをして明らかになったこ

とがあれば、多少、バイアスがかかっていたとしても、ミドル世代を考えていく上で貴重な知見になるのではないでしょうか。

○委員　拡散するとか。

○議長　拡散するとは……。

○委員　このアンケートを拡散してくださいとか言って、みんなでばあって。

○議長　Ｘで拡散していくような方法は、調査ではないですね。

私は、委員が「知りたいこと」をヒアリングしていただいて、それで分かったことを共有していただけると、多少、方法論的に荒さがあっても、それはとても意味のあることだと思います。

すみません、余計な話をしていて、８時30分を過ぎてしまいました。

○委員　いや、それは今から調べる感じなんでしょう。今から聞いて、今度持ってくるというまではいかない……。スケジュールはどんな感じなんですか。

○議長　次回までに、調査に関連する事柄をいくらか整理していただければ。

○事務局　次回なんですけれども、10月上旬、中旬ぐらいにまた何日か、候補を出して、皆様にメールで確認させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。今はそういう形で、事務局にまた案をいろいろいただけると、資料をまとめて御提示することができると思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長　次回が10月なら、次回までに何を聞いてくればいいのかを決めてくれたら、私、周りの人にヒアリングしてくるわと、委員が言いたげですが・・。

○委員　夏休みを有効に活用したいわ。

○委員　そうそう。

○委員　そのとおり。

○委員　だから、10月の直前では困るよね。

○事務局　そうですね。今日、すぐ御提示できないので、またメールでお返しさせていただいて、これを教えてくださいとか、調べていただきたいということを……。

○委員　じゃ、夏休み前に。

○事務局　できるだけ考えます。

○議長　ということで、時間になりましたので、今日はこれで閉じたいと思います。ありがとうございます。

午後８時38分閉会